



# 創体協だより

第70号

発行 釧路市体育協会  
平成28年3月31日



## 更なる高みを求めて

釧路市体育協会

会長 張江 悌治

歴史と伝統に裏打ちされた創立70周年という記念すべき節目を迎えた釧路市体育協会は、さらなるスポーツの振興を目指し、加盟会員1万9千人の「みなぎるスポーツの力」を結集し、各種の記念事業を推し進めてまいりました。

お陰様でいずれの事業も満足のいく成果を残すことができました。これも偏えに、多くの関係皆様による格別のご理解ご支援の賜物と実行委員一同深謝申し上げる次第です。

スポーツによる快い汗、健全な心身、そしてスポーツへの多様なかわりが、市民一人一人の生きがいを実感することとなり、スポーツ都市釧路

の実現へとつながっていきます。

今後の釧路のスポーツの発展とは、新しい体育協会の道を切り開いていくことであります。新しい道を拓く者、歴史を創る者、それはまさしく我々自身であります。

結びに、10年後の80周年という更なる高みを求めていくため、「スポーツの力」を信じつつ不断の努力と精進を重ねる決意を表明するとともに、加盟団体会員はじめ多くの関係皆様に深謝申し上げます。お礼とさせていただきます。

釧路市体育協会創立70周年、誠にありがとうございました。

## 輝かしい功績をたたえ

平成27年度 釧路市スポーツ賞 スポーツ奨励賞



スポーツ賞：板本 猛氏 (72歳) 【カーリング 他】

30年以上釧路カーリング協会の要職を歴任し、競技普及に尽力。ボート、ゲートボール、ラジオ体操など多くの競技団体でも中心的役割を果たされたほか、スポーツ釧路市推進委員協議会長を長く務めるなど、社会体育の推進に寄与されました。



スポーツ賞：故 須貝麻理子氏 (享年56歳) 【フィギュアスケート】

35年以上にわたり釧路スケート連盟フィギュア部の中核として、競技の普及振興や審判などで貢献。国際大会で活躍する選手を育て上げ、日本スケート連盟ジュニア強化コーチを務めた。冬季国体など各種大会の運営でも中心的な役割を担われました。



スポーツ賞：山田 凌平氏 (18歳) 【剣道】

釧路剣心会で基礎を学び、鳥取中時代には全国中体連個人準優勝。九州学院高(熊本県)では全国高校総体団体優勝などに貢献。平成26年5月の世界選手権では最年少で日本人代表入りし、3試合に出場して勝利するなどチームの世界一に貢献されました。

平成27年10月23日(金)釧路プリンスホテルで平成27年度釧路市スポーツ賞の授賞式が行われました。あわせて、昨年度の全国中体連で全国制覇を果たした「釧路市立鳥取中学校アイスホッケー部」にはスポーツ奨励賞が授与され、3個人1チームの方々には、最大級の賛辞が贈られました。

また、平成28年3月25日(金)日本製紙アイスアリーナで、ノルウェー・リレハンメルで開催された第2回ユースオリンピック冬季競技大会のアイスホッケー競技女子の部スキルチャレンジ種目において、金メダルを獲得した竹中星奈さん(鳥西中3年、Daishin所属)にスポーツ奨励賞が授与されました。

# 祝 釧路市体育協会創立70周年記念事業

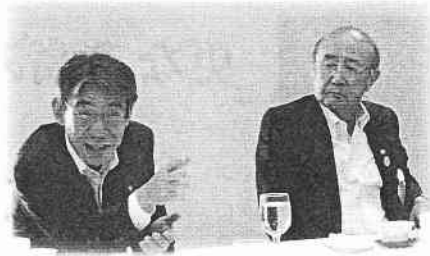
座談会：釧路センチュリーキャッスルホテル（H27.7.31）

講演会：釧路市生涯学習センター（H27.9.26）

記念式典・祝賀会：釧路プリンスホテル（H27.11.14）



座談会：「スポーツの力で…」



座談会：「ゆめいっぱい！」



講演会：藤澤秀敏 講師



講演会：「スポーツは世界をつなぐ」



式典：張江悌治実行委員長



式典：国歌斉唱



式典：受賞の皆様



式典：清水幸彦受賞者代表



祝賀会：堀達也北海道体育協会会長



祝賀会：祝宴



祝賀会：栗林定徳北海道スケート連盟副会長



祝賀会：万歳三唱



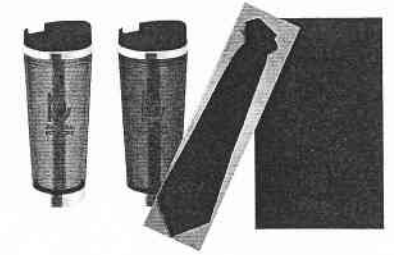
冠市体育祭：長ぐつアイスホッケー



冠市体育祭：特製賞状&特製参加賞



記念誌：七十年史



記念グッズ：タンブラー&ネクタイ

釧路市体育協会 創立70周年記念

# 第70回釧路市冬季体育祭総合開会式

第70回釧路市冬季体育祭開会式が12月10日夜、市生涯学習センターで開かれました。今回は市体協創立70周年記念を兼ね、会場では約100名の選手らが健闘を誓い合いました。

釧路市教育委員会の藤澤生涯学習部長は「スポーツに親しみながら、他チームとの交流の輪を広げてほしい」と挨拶しました。大会委員長である張江悌治市体協会長も「冬季種目の競技

人口が減りつつあるが、その分、みなさんの活躍を期待する」と選手たちを激励しました。

フィギュアスケートの海津あすか選手が「一戦一戦全力でプレーすることを誓います」と選手宣誓し、大会での健闘を誓いました。

体育祭は3月中旬まで開催。アイスホッケー、フィギュアスケート、スキー、カーリング、長靴アイスホッケーに、約2,000名が出場しました。



大会長 挨拶



優勝カップ 返還



大会委員長 挨拶



選手 宣誓

## 祝 釧路市スポーツ少年団 創立30周年

釧路市スポーツ少年団（横地敏光本部長）の創立を祝う記念式典と祝賀会が22日、ANAクラウンプラザホテル釧路で行われました。

関係機関の代表はじめ、役員、指導者などが集まり、30周年の節目を祝いました。

式典では、少年団の活動に貢献した役員14名、指導者14名、特別表彰23名、単位団表彰として48団体に表彰状が手渡されました。

引き続き祝賀会では、はじめに大久保貢副本部長からの感謝の挨拶があり、林義則教育長の乾杯のご発声、そして、蝦名市長の祝辞をいただきました。

中程でプロジェクターを使った少年団の活動紹介等もあり、和やかな雰囲気の中で今後のスポーツ少年団の更なる飛躍へ向け、望ましい活動の在り方について決意を新たにしました。



受賞者代表 謝辞



祝 宴



単位団 紹介



万歳 三唱

国民体育大会（国体）は、都道府県持ち回りで毎年開催される国内最大の国民スポーツの祭典である。国体は本大会と冬季大会に分かれて開催される。釧路市では本大会である平成年に、冬季大会では、昭和59年、平成9年、平成22年と奇しくも13年ごとに開催されてきた。6年前のくしろサップロ氷雪国体では5日間の開催期間中、ショートトラック、フィギュアを含むスケート、アイスホッケーの種目で参加選手・役員数2千百名。観覧者総数2万2千名。宿泊者総数8千6百名。式典時におけるボランティア数3百名。開催地の釧路市民は、地元にながらにして国内トップレベルの選手のプレーを間近に「観る」機会を得た。さらにはボランティアとして大会運営を「支える」活動にも参加した。地元出身選手や本道選手を心ひとつにして「応援」をしてきた。国体開催のたびに、マチぐるみの関わりを通して、市民の意識は確かな成長を遂げた。さて、今後「国体の冬季大会」の釧路市開催が現実味を帯びてきており、心が弾む。開催地は競技施設の改修・整備をはじめとする多面的な工夫が求められる。国体を一過性で終わらせてしまうことなく、スポーツを通じて地域の活性化やジュニアの強化など市民生活と結びつけた視点を持って準備を進めていくことが望まれる。

編集後記

